

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
臨床看護総論	1	30	1年 後期	齊藤まどか 吉田かつえ 畠山智
科目目的 : 健康障害をもつ対象の状況に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を学ぶ 目標 : 1. 健康障害のある対象・家族を理解する 2. 各健康レベルにある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する 3. 各症状別にある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する 4. 各治療別に応じた対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 参考文献 : 新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 成人看護学 リハビリテーション看護論 HIROKAWA				
評価方法 : 筆記試験100% (齊藤 40% 吉田 30% 畠山 30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 1. 教科書、授業で配布した資料は、必ず持参してください 2. 今まで学んできた学習を想起して、授業に臨んでください 3. 調べ学習、グループワークがありますので、積極的に取り組んでください				
単元：健康障害のある対象・家族の理解 健康レベル別看護			担当講師：齊藤まどか	
単元：主要症状と看護			担当講師：吉田かつえ	
単元：治療別看護			担当講師：畠山智	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	健康障害のある対象・家族の理解	健康上のニーズをもつ対象・家族を理解する	2	1. 健康上のニーズを持つ対象と家族への看護 1) ライフサイクルからとらえた対象と家族の健康上のニーズ (1) 人のライフスタイルからとらえた看護 ① ライフサイクルと発達段階 ② ライフサイクルと健康上のニーズおよび看護との関連 (2) 子どもの理解 ① ライフサイクルからみた子どもの特徴 ② 子どもの健康上のニーズ	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				③健康上のニーズをもつ子どもと 家族の看護 (3)成人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた成人 の特徴 ②成人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ成人と 家族の看護 (4)高齢者の理解と看護 ①ライフサイクルからみた高齢者 の特徴 ②高齢者の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ高齢者と 家族の看護 (5)親になる人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた親にな る人の特徴 ②親になる人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ親になる 人と家族の看護 2. 家族の機能からとらえた対象と 家族の健康上のニーズ 1)家族の理解 (1)家族とは (2)わが国の家族形態と価値観の変化 (3)家族の機能と発達課題 2)家族の健康上のニーズ (1)ユニットとしての家族のニーズ (2)健康問題を持つ人とその家族への 看護 3)生活と療養の場からとらえた対象 と家族の健康上のニーズ (1)生活と療養 (2)病院・施設における看護 (3)在宅における看護	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2 3 4 5	健康レベル別看護	急性期における看護 急性期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 急性期の特徴 2. 急性期の患者のニーズ 3. 急性期にある患者への看護援助	講義 ワークシート 発表
慢性期における看護 慢性期の特徴と対象への看護援助を理解する		2	1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助	講義	
回復期における看護 回復期の特徴と対象への看護援助を理解する		2	1. 回復期の特徴 2. 回復期の患者のニーズ 3. 回復期にある患者への看護援助	講義 ワークシート 発表	
終末期における看護 終末期の特徴と対象への看護援助を理解する		2	1. 終末期の特徴 2. 終末期の患者のニーズ 3. 終末期にある患者への看護援助	講義	
6 7 8	主要症状と看護	呼吸に関連する症状への看護 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 呼吸機能障害関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
循環に関連する症状への看護 循環機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する		2	1. 循環機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 循環機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 循環機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義	
栄養・排泄に関連する症状への看護 栄養障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する		2	1. 栄養障害・排泄機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 栄養障害・排泄機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 栄養障害・排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9 10		認知・知覚に関連する症状への看護 認知・知覚に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 認知・知覚に関連する症状のメカニズム 2. 認知・知覚に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 認知・感覚機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		安楽に関連する症状への看護 安楽に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 安楽に関連する症状のメカニズム 2. 安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
11 12 13 14 15	治療別看護	安静療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 安静療法と看護 1)安静療法とは 2)安静療法を必要とする対象とは 3)安静療法が及ぼす弊害 4)安静療法を受ける患者の看護	講義
		食事療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 食事療法と看護 1)食事療法とは 2)食事療法を必要とする対象とは 3)食事療法が患者に及ぼす影響 4)食事療法を受ける患者の看護	講義
		薬物療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 薬物療法と看護 1)薬物療法とは 2)薬物療法を必要とする対象とは 3)薬物療法が患者に及ぼす影響 4)薬物療法を受ける患者の看護	講義
		放射線療法の特徴と治療を受ける患者の看護について理解する	2	1. 放射線療法と看護 1)放射線療法とは 2)放射線療法に伴う有害事象 3)放射線療法を受ける対象の看護	講義
		リハビリテーションにおける看護を理解する	2	1. リハビリテーションと看護 1)リハビリテーションにおける看護の概念と目的 2) 看護の役割 3)看護活動 (1)急性期、慢性期、回復期	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学総論 I	1	15	1年 後期	三上麻美
科目目的 : 成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ 目標 : 1. 成人看護学の特性を理解する 2. 成人看護の機能と役割を理解する 3. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 成人看護に有用な理論を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 医学書院 参考文献 : 成人看護学概論 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 成人看護学概論(第2版) ニューベルヒロカワ 新体系 看護学全書 成人看護学概論 成人保健 メヂカルフレンド社 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門 日総研				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優 (80点以上)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 教科書、配布資料をもとに授業を行います 2. グループワークには、積極的に参加しましょう 3. グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1	成人看護の機能と役割	成人看護学の概要を理解する 成人看護の機能と役割を理解する	2	1. 看護学全体から見た成人看護学の位置づけ 2. 成人の定義 1)生理学的定義 2)法律的定義 3)大人になるとは 3. 成人看護の基本的姿勢 1)健康行動の促進 2)健康生活を支える人間関係の構築 3)集団へのアプローチ 4)チームアプローチ 5)看護マネジメント 6)倫理的判断 7)意思決定支援 8)家族支援	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
2 3 4 5 6	成人看護の 対象	成人期の発達段階・ 発達課題を理解する 成人各期における身 体的・精神的・社会 的側面の特徴を理解 する	10	1. ライフサイクルからみた成人期の位置 づけ 2. 成人期の発達段階・発達課題に関する 理論 1) エリクソン 2) ハヴィガースト 3) レビンソン 3. 成人各期の発達段階・発達課題の特徴 1) 青年期 2) 壮年期・中年期 3) 向老期	講義 グループ ワーク
7 8	成人看護に 有用な理論	対象理解および看護 実践に活用できる理 論の概略を理解する	3	1. セルフケア 2. 病みの軌跡 3. 自己効力 4. アンドラゴジー 5. エンパワメント 6. ストレスコーピング 7. フィンク	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学総論Ⅱ	1	30	1年 後期	三上麻美
<p>科目目的 : 成人期にある対象の生活および健康課題と成人保健の動向を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための対策を学ぶ</p> <p>目標 : 1. 成人を取り巻く社会環境と成人の生活を理解する 2. 成人保健の動向を理解する 3. 成人各期における健康課題の特徴を理解する 4. 成人期にある人の健康の保持・増進、疾病予防のための保健医療福祉対策を理解する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 医学書院</p> <p>参考文献 : ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 成人看護学概論 南江堂 成人看護学概論(第2版) ヌーベルヒロカワ 新体系 看護学全書 成人看護学概論 成人保健 メヂカルフレンド社</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験 100%</p> <p>評価認定 : 優 (80点以上)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 教科書、配布資料をもとに授業を行います 2. グループワークには、積極的に参加しましょう 3. グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう</p>				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1 2 3	社会環境と 成人の生活	成人を取り巻く 社会環境を理解 する 成人の生活の営 みとその多様性 について理解す る	6	1. 働くことと生活 1)生活を営む意味 2)働くことの意味 3)ワークライフバランス 2. 家族との関係 1)家族の定義 2)家族形態の変化 3. 多様なライフスタイル 1)日常生活スタイルの変化 2)日常生活を取り巻く環境 3)健康観の多様性	講義 グループ ワーク
4 5 6 7	成人保健の 動向	成人の健康を 様々な保健統計 を通して理解す る わが国の保健・医 療・福祉に関わる 施策の概要と連 携の必要性を理 解する	8	1. 保健統計から見た成人の健康の動向 1)人口構成と成人期を生きる人々 2)平均寿命と健康寿命、死亡状況 3)受療状況 4)体力の程度 5)労働災害、業務上疾病 6)性感染症 7)ドメスティック・バイオレンス 8)自殺 9)障害者の状況	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
		ヘルスプロモーションの概要を理解する		2. 成人を対象とした保健・医療・福祉対策 1) 保健にかかわる対策 ①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理への対応 ③高齢者への保健事業 2) 医療にかかわる対策 ①医療法の改正 ②21世紀の医療提供体制 3) 福祉にかかわる対策 ①障害者福祉 ②高齢者福祉 4) 保健・医療・福祉の連携の重要性 3. ヘルスプロモーション 1) ヘルスプロモーションとは 2) ヘルスプロモーションの目標 3) ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	成人期に特徴的な健康課題と対策	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ各期の健康課題の特徴を理解する 成人期にある人の主な健康障害とその予防・対策について理解する	16	1. 成人各期に特徴的な健康課題 1) 青年期にある人の健康課題 2) 壮年期・中年期にある人の健康課題 3) 向老期にある人の健康課題 2. 生活習慣に関連する健康障害 1) 生活習慣と健康障害の関連 2) 生活習慣病の発生要因と対応 3) 生活習慣病の発生予防 3. 職業に関連する健康障害 1) 職業性疾病および業務上疾病 2) 職業性疾病の予防と対応 4. 生活ストレスに関連する健康障害 1) 生活ストレスと健康障害 2) 成人の生活ストレス 3) ストレス関連疾患の予防と対応 5. セクシュアリティに関連する健康障害 1) セクシュアリティと健康に関連する概念 2) 性的健康の指標および実態 3) 性に関連する健康障害の予防と対応 6. 更年期に関連する健康障害 1) 更年期障害とは 2) 更年期障害の原因・症状 3) 更年期障害の予防と治療	講義 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
老年看護学総論Ⅰ	1	15	1年 後期	齊藤まどか
<p>科目目的 : 老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ</p> <p>目標 : 1. 老年看護の理念・目的・目標を理解する 2. 老年看護の特徴・看護師が果たす役割を理解する 3. 老化に伴う高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 高齢者模擬体験を通して生活動作の不自由さを実感し、高齢者の心理的側面及び環境調整の意義や必要性を理解する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>参考文献 : 新体系 看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論老年保健 メヂカルフレンド社 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験80% 高齢者模擬体験演習20%</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価をする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを行いますので、積極的に参加しましょう</p>				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	老年看護 の機能と 役割	老年看護の理念・ 目的・目標を理解 する 老年看護の特徴を 理解する 老年看護の原則を 理解する 老年看護における 看護の役割を理解 する	4	1. 老年看護の理念 1)高齢者の特性 2)老年看護の独自性 (1)生活に着目することの意味 (2)生活を志向した援助の体系 (3)看護の働きが求められる生活という 営み 3)キュアとケアの統合 (1)治療と看護 (2)予測と予防の看護 4)看護の役割と介護の役割 5)老年観(高齢者観)の育成 2. 老年看護の目的・目標 1)満足のいく生の完成 2)快適で自立した生活の実現	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. 老年看護の特徴 1)注目すべき4つの側面 2)高齢者のための国連原則 3)老年看護の原則と看護の役割 (1)意思決定する力の信頼・支援 (2)最大限の生活機能の回復 (3)死にいたるプロセスの調整 (4)家族のニーズに応じた支援 (5)潜在力を引き出す環境調整 (6)他職種との連携	講義
3 4 5 6 7 8	老年看護の対象	老化に伴う身体的・精神的・社会的変化について理解する 老年期の発達段階・発達課題を理解する	4	1. 加齢と老化 1)身体的側面の変化 2)精神（心理）的側面の変化 3)社会的側面の変化 2. 老年期の発達段階・発達課題 1)老年期とは 2)高齢者が生きてきた時代背景 3)老年期の発達課題 (1)エリクソン (2)ペック (3)ハヴィガースト 4)死生観・スピリチュアリティ	講義
		高齢者模擬体験を通して、老化に伴う生活動作の不自由さを理解する 高齢者が安全・安楽に生活するための関わりを理解する	7	3. 高齢者模擬体験演習 1) 実施方法 (1)事前課題 ①老化に伴う機能変化についての復習 ②体験内容の事例(ストーリー)の作成 (2)学内演習の進め方 ①グループ内で「高齢者役」「看護師役」「高齢者役及び看護師役の観察者」をローテーションする ②「高齢者役」は各自で考えたストーリーに沿って模擬体験を行う ③演習終了後のグループワーク a.高齢者役を通しての学び b.看護師役を通しての学び c.安全・安楽な高齢者の生活を支えるための関わりについて	学内演習 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				④リフレクションシートの記載 2)評価方法 高齢者模擬体験演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験、高齢者模擬体験演習評価表	

<事前課題>

第1・2回：第3章「老年看護の基盤」を熟読する。

第3・4回：第1章「老いるということ、老いを生きるということ」を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
老年看護学総論Ⅱ	1	30	1年 後期	齊藤まどか 仲田恵子
科目目的 : 高齢者を取り巻く社会情勢及び保健医療福祉対策を理解し、高齢者の療養生活の現状と その中で看護が果たす役割を学ぶ 目標 : 1. 超高齢社会の現状を統計的輪郭から理解する 2. 高齢者の生活と健康を支える保健医療福祉制度・政策について理解する 3. 高齢者の権利擁護について理解する 4. 多様な場で生活・療養する高齢者と家族に対する看護を理解する 5. 老年看護に理論を活用する意義と代表的な理論の概要を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 参考文献 : 看護学テキスト NICE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 南光堂 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験100% (齊藤60%、仲田40%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階 評価をする				
授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります				
単元 : 高齢社会と社会保障、看護理論			担当講師 : 齊藤まどか	
単元 : 高齢者の生活・療養の場			担当講師 : 仲田恵子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	高齢社会 と社会保 障	高齢者に関する統計 的特徴を理解する	4	1. 高齢社会の統計的輪郭 1)わが国の高齢化 2)高齢者のいる世帯 3)高齢者の健康状態 4)高齢者の死亡 5)高齢者の暮らし	講義
		高齢者を支える様々 な社会制度の成立背 景と目的・役割を理 解する	8	2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1)高齢者とソーシャルサポート 2)保健医療福祉制度の変遷 3)介護保険制度の整備 4)高齢者医療の仕組み 5)高齢者を支える職種と活動の多様性	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7 8		高齢者の倫理的課題と法的整備の動向を理解する	4	3. 高齢者の権利擁護 1)高齢者に対するスティグマと差別 2)高齢者虐待 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業	講義
9	老年看護に有用な看護理論	高齢者の看護を考える上で有用な理論やアプローチ方法を理解する	2	1. 老年看護に理論を活用する意義 2. 老年看護に役立つ理論・概念 1)エイジング 2)エンパワメント 3)生涯発達理論 4)バトラー 5)ストレングス	講義
10 11 12 13 14 15	高齢者の生活・療養の場	在宅での療養生活の現状と看護の概要を理解する	6	1. 高齢者の療養の場と看護 1)在宅高齢者への看護 (1) 介護予防と看護 (2) 介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護 (3) 包括的・継続的に支援する活動 2)保健医療福祉施設における看護 (1) 医療施設の特徴と看護 (2) 介護保険施設の特徴と看護	講義
		高齢者を介護する家族の特徴と家族への支援を理解する	4	2. 高齢者の家族と看護 1)介護家族の生活と健康 2)介護家族への看護	
		高齢者に特有のリスクと対策を理解する	2	3. 高齢者のリスクマネジメント 1)高齢者と医療安全 2)高齢者と救急救命 3)高齢者と災害看護	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

<事前課題>

(高齢社会と社会保障) 第1回 : 老年に関する統計について整理する。

第2～7回 : 第2章「高齢社会と社会保障」を熟読する。

第8回 : 第3章「老年看護の基盤」の理論・概念の活用を熟読する。

(高齢者の生活・療養の場)

第7章「生活・療養の場における看護の展開」、第8章「高齢者のリスクマネジメント」を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
小児看護学総論Ⅰ	1	15	1年後期	野口みどり
科目目的 : 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的と役割を学ぶ 目標 : 1. 現代の子どもと家族を取り巻く社会環境について理解する 2. 子どもの権利を尊重した看護について理解する 3. 保健医療福祉チームとしての小児看護の役割を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 MC メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 唯一小児期は、自分自身が経過した過程であるため、自身の出生時から成長した過程を振り返り、作成した年表をもとに、子どもが健康で健やかに育つ環境、少子化(出生数・合計特殊出生率・世帯構成など)の学習とつなげて、自身が生まれた社会状況と、現在の子どもたちの社会状況を見ていく。総論Ⅱでも自身の年表を活用しながら、子どもの特徴・成長発達を捉えられるようにしていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	小児看護の 目指すところ	子どもの健康の とらえ方と看護 の役割を理解す る	3	1. 小児看護の対象 1) 子どもの特徴 2) 子どもと家族・社会 3) 子どもと医療 2. グループワーク：自身の幼少期～現在までの社会情勢・生活環境を振り返ってみます 3. 小児看護の目標と役割	講義 グループワーク
3 4	小児と家族 の諸統計	人口構造の変化 とその理由を理 解する	4	1. わが国の人口構造 2. グループワーク：自身の年表作成(出生～現在)自身と現代の動向の比較をしながら、わが国の社会構造を確認します 3. 出生と家族 1) 出生数、合計特殊出生率 2) 出生と母の年齢、世帯構造	講義 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4. 子どもの死亡 1) 周産期死亡 2) 乳児死亡 3) 子どもの死亡	
5	小児看護の変遷	小児の変遷を知り、わが国の小児医療の政策を理解する	2	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2. わが国の児童観・育児観の変遷 3. わが国の小児医療の変遷 4. 小児看護の変遷 5. 現代の小児看護	講義
6 7	小児看護における倫理	子どもの権利と医療現場で起こりやすい問題の特徴を理解する	4	1. 子どもの権利 2. 医療現場でおこりやすい問題点と看護 1) 医療・治療の選択・決定 2) 子どものケア 3) 研究における倫理 3. グループワーク：事例から小児の倫理について考えてみます	講義 グループワーク
8	小児看護の課題	社会情勢や疾病構造の変化に応じた小児の課題を理解する	2	1. 疾病構造の変化と小児看護 1) 高度複雑化した医療 2) 継続看護 3) 他職種間の調整機能 4) 成人医療との協働 2. 社会変化と小児看護 1) 育児・養育機能の維持・増進 2) 小児保健の効率性・経済性 3) 小児救急医療の充実 3. 小児看護の専門分化 1) 看護の中の専門分化 2) 小児看護の中の専門分化	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題：自身の出生から現在までの成長発達に関する年表を作成する。(個人的に知られたくない内容は省いてもかまいません) 例えば 歩き始めた時期、どのような遊びをしていたか。

年表用紙事前配布：講義初回から講義4回目までの内容を追記して提出となります

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
母性看護学総論 I	1	15	1年後期	吉田かつえ
<p>科目目的 : 母性看護の基礎となる概念を学び、母性看護の対象の特徴から母性看護独自の特徴を理解する</p> <p>科目目標 : 1. 母性とは何かを考え、母性をめぐる様々な定義を理解し、母性看護における母性の捉えかたについて学ぶ 2. 人間の性を示すセクシュアリティについて学ぶ 3. リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて理解を深める 4. 母性看護のあり方について、対象、看護の目的・目標から理解を深める 5. 母性看護の対象の特徴・特性について学ぶ</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</p> <p>参考文献 : 都度紹介</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験 100%</p> <p>評価・認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60点~69以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>母性看護学の基礎となる部分です 自ら考え学習し、母性看護の理解を深めるためにグループワークでメンバーとの意見交換も行います</p>				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	母性とは	母性の特性について学ぶ	2	1. 親になることと母性 2. 母性の身体的特徴 3. 母性の心理・社会的特徴 4. 母性看護における母性	講義 グループワーク
2	母子関係と発達課題 セクシュアリティ	子どもとの関係から母性発達を学ぶ 人間が人間らしく健康に生きるためのセクシュアリティについて学ぶ	2	1. 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2. 家族機能、家族の発達課題 3. セクシュアリティとは 4. セクシュアリティの発達と課題	講義
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する	2	1. リプロダクティブヘルス/ライツとは 2. 女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 3. 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ	講義

4	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて理解する	2	1. ヘルスプロモーションとは 2. 女性の生涯にわたる健康教育	講義
5	女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承	女性のライフサイクルの変化と家族の発達の関連から母性の一生を学ぶ 母性の発達・成熟・継承について学ぶ	1	1. 現代女性のライフサイクル 2. 家族の発達段階と家族看護 3. 女性性の発達 4. 母性の発達 5. 母子関係と愛着 6. 母子の世代間伝達	講義
6	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	生殖器の形態・機能について学ぶ	2	1. 生殖器の形態・機能 2. 妊娠と胎児の性分化	講義
7 8	母性における倫理 安全・事故防止	母性看護の実践するうえで重要な倫理について学ぶ	4	1. 生命倫理と看護倫理 2. 看護における倫理的意決定 3. 事例提示から学生間の意見交換	講義 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
精神看護学総論 I	1	15	1年後期	畠山 智
科目目的 : 精神看護の意義、対象、役割、機能を理解し、精神の危機的状況や障害を持つ人とその家族に必要な基本的な知識を学ぶ 目標 : 1. 精神看護の目的・目標を理解する 2. 精神看護の対象を理解する 3. 精神看護の役割と機能を理解する 4. 精神看護の動向と課題を理解する				
教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論、精神保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 教科書、配布資料を基に進めていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	精神看護の目的・目標	精神看護の目的・目標を理解する	4	1. 精神看護学の位置づけ 2. 精神看護の目的と目標 3. 精神看護学と精神看護	講義
3 4 5 6	精神看護の対象	看護の対象となる(個人と集団)人について理解する	7	1. 看護の対象である個人及び集団 2. あらゆる発達段階にある人とその家族 3. あらゆる健康段階にある人とその家族 4. ノーマライゼーションと精神障害者の人権・倫理	講義 グループワーク
7 8	精神看護の機能・役割	看護の役割と機能について理解する	4	1. 精神の病気について悩んでいる人とその家族に対する看護 2. 精神的危機状況への看護 3. 精神保健と相談、社会資源とネットワークづくり 4. 家族への支援 5. コンサルテーションリエゾン精神看護	講義 DVD
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
在宅看護論総論 I	1	15	1年 後期	櫻井美奈子
科目目的 : 在宅看護の対象と家族の特徴を理解し、在宅看護の機能と役割を理解する 目標 : 1. 在宅看護の現状から、在宅看護の理念・目的、看護師の役割と機能を理解する 2. 在宅看護の対象となる療養者と家族の特徴を理解する 3. 在宅看護における倫理的課題について理解する				
教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 在宅看護論 実践をことばに (第6版) ヌーベルヒロカワ				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきますので、積極的に参加しましょう				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	在宅看護 の目的と 特徴	在宅看護の概念を理 解する 在宅看護における看 護師の役割を理解す る	4	1. 地域看護と在宅看護の関連 2. 在宅看護が目指すもの 1)在宅看護の理念・目的 2)在宅看護の場の広がり 3. 在宅看護における看護師の役割と 機能 1)地域包括ケアシステム 2)医療ニーズに応じた継続的な医療 (1)継続的に支え続ける医療・介護の 提供体制 (2)地域連携クリティカルパス (3)退院支援・退院調整 (4)医療提供の場と医療内容の検討 (5)継続的な医療の提供	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7	在宅看護 の対象	在宅看護の対象と家族の特徴を理解する 家族を含めた在宅看護の必要性を理解する 日本の家族と家族支援の特徴を理解する	9	1. 対象の特徴 1)年齢・疾患・障がいからみた特徴 2)在宅療養状態別(健康・障害レベル別)にみた特徴 3)法制度からみた対象 2. 対象の家族 1)在宅看護の対象としての家族 2)家族アセスメントの必要性 3)家族アセスメントに有効な理論 (1)家族システム理論 (2)家族発達理論 (3)家族危機理論 4)家族アセスメント 5)日本の家族の特徴と家族看護 (1)家族による介護の状況 (2)介護負担 (3)介護力に応じた家族支援	講義 グループ ワーク
8	在宅療養者の権利保障	在宅療養者の権利保障について理解する 在宅看護に関わる者としての基本姿勢を理解する	2	1. 在宅看護に関係する法の理解 1)個人の尊厳 2)自己決定権 3)個人情報保護法 4)成年後見制度 (1)法定後見 (2)任意後見 5)高齢者虐待防止法 (1)虐待の規定・類型 (2)虐待への対応 2. 在宅看護における看護師の倫理 1)看護師が陥るジレンマ 2)訪問看護倫理要綱	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

(事前課題)

第1回 : 教科書 第1章 在宅看護の目的と特徴を熟読する。

第2回 : 教科書 付章 訪問看護倫理要綱を熟読する。

第3～7回 : 教科書 第2章 在宅看護の対象を熟読する。

第8回 : 教科書 第4章 在宅看護の展開「対象(家族も含む)の権利保障」を熟読する。